

6月13日から15日の3日間、今年度第1回目の「笠松町あいさつ運動」が実施されました。この運動は、笠松中学校生徒会が主催し、それに道徳のまち笠松推進会議や笠松町青少年育成町民会議の会員、小中学校の児童生徒やPTA、岐阜工業高等学校の生徒、町内の多くの有志の方が協力し、活動を盛り上げています。

各小学校の校門や玄関では、登校してくる児童と、明るい笑顔のあいさつが交わされました。笠松駅では、利用者に「おはようございます。」と声を掛けると、ほとんどの人があいさつを返してくれ、自然に笑顔になりました。その他、小中学生の通学路や自宅付近でも、あいさつを交わし合う姿が多く見られました。

この「笠松町あいさつ運動」が始まって約8年経ちますが、町全体にあいさつの輪が広がっていることを実感しています。

さらに、安全で、明るく、支え合えるまちづくりのために、あいさつ運動をきっかけにして、家庭や地域で、元気で明るいあいさつの声が響きわたるようになることを願っています。

なお、第2回笠松町あいさつ運動は、平成30年2月に予定されています。町民の皆さんの参加で盛り上げましょう。

各学校のあいさつ運動



笠松小学校



松枝小学校



下羽栗小学校

かさまつのみ話「昔むかし」

どんぐりがゆ ③

「元氣そうではあったが、頬骨がつき出し目ばかりを大きくしているわが子を、みてため息をつくばかりであった。このころになると、オオバコも根まで掘り返され、土手によもぎやせりをみつめることさえできなかつた。そのうえ、みつければ土根まで掘りおこすので、来年あたたかい春がきても若芽のでる草は、ドクダミ・ミチシタなど食べよのない草だけであった。久平は、わが家にあと五升の米があることを知っていた。しかし順調にいつて稲刈りは、十月十日、まだ二月あまりもあった。五升で二人が二月あまりを生きかゆものどを通らなかつた。」「食い物を集めにやならん。かさまつのみ話「昔むかし」は昭和54年に発行されました。笠松中央公民館・松枝公民館・総合会館でご覧いただけます。

食べられるものはなんでもい。」「久平は、夢中で村中をさがしまわつた。かしの実よめな、つけつけ、からすのえんどう、目につくものはなんでもびくにいられた。なんでも取っておけばなんとか食えるものだ。これは、久平の信念であった。このときの久平には、庄屋さまが毒だから食べへはいけないとだした「かしの実のわざわい・米ぬかのわざわい」のおふれを思い出す余裕がなかつた。

「あのおたねのように殺したくない。妻や子をうしないたくない。」という親として、夫としての信念だけであった。「とおちゃん、きょうのおかゆに豆が入っているぞ。」末っ子の弥平がさげんだ。

(つづく)